

## Trados Studio ご利用ガイド

このガイドでは、Trados Studio 2024 のデスクトップアプリ（以下、Trados とよびます）を初めてお使いになる方、トライアルをお試しになる方向けに基本的なご利用の流れをご説明いたします。

### 目次

0. 準備.....	2
1. Trados の起動.....	3
2. プロジェクトの作成 .....	3
3. 翻訳作業の基本 .....	13
3-1. 訳文の入力 .....	16
3-2. 翻訳メモリの利用 .....	16
3-3. 用語ベースの利用 .....	18
3-4. 検証.....	19
3-5. 訳文の生成 .....	20
4. 翻訳時に利用する機能.....	21
4-1. 一括翻訳 .....	21
4-2. 訳語検索 .....	23
4-3. プレビュー .....	24
4-4. フィルタ .....	25
4-5. 原文の編集 .....	26
4-6. ファイルの解析.....	27
5. 翻訳ファイルの取り扱い.....	29
参考: [ようこそ] ビューからの原文ファイルの取り込み.....	29

## 0. 準備

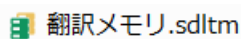
Trados で翻訳作業を行う場合は、通常以下の 3 点を用意します。

### ①原文ファイル

Trados へ取り込む原文ファイルです。翻訳中は作業用バイリンガルファイル（.sdlxliff）に変換され、翻訳後は原文ファイルと同じ形式で訳文ファイルが出力されます。

翻訳対象ファイル: Word、PowerPoint、Excel、InDesign、FrameMaker、HTML、XML など

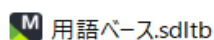
### ②翻訳メモリ



翻訳メモリ.sdltm

.sdltm という拡張子のファイルで、過去の翻訳データが「文単位」で登録されているデータベースです。①の原文と照らし合わせ類似/同一の文を流用することが可能です。

### ③用語ベース



用語ベース.sdlb

.sdlb という拡張子のファイルで、「語/句単位」で登録されている用語のデータベースです。①の原文と照らし合わせ、該当の用語があれば自動で検索結果を表示します。

翻訳メモリとは別の独立したデータ（ファイル）となります。

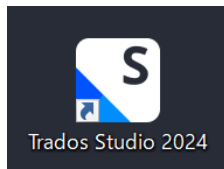
※翻訳メモリ、用語ベースはそれぞれ事前に作成をしていただく必要があります  
データを一括インポートすることも、翻訳をしながら蓄積していくことも可能です



イメージ図

## 1. Trados の起動

Trados をダブルクリックして起動します。初回は 30 日間の無料トライアル版として起動します。トライアル環境ではフル機能をお使いいただけ、トライアル中のデータは本番環境でも継続して使用が可能です。



左下の [ようこそ]、[プロジェクト] など（ビューとよびます）をクリックし、右側の作業領域を切り替えます。上部リボンには Microsoft Office のようにお使いいただけるメニュー項目があります。右上の青い検索ボックスで行いたいコマンドを検索すると、行いたいコマンドに素早く移動することが可能です。

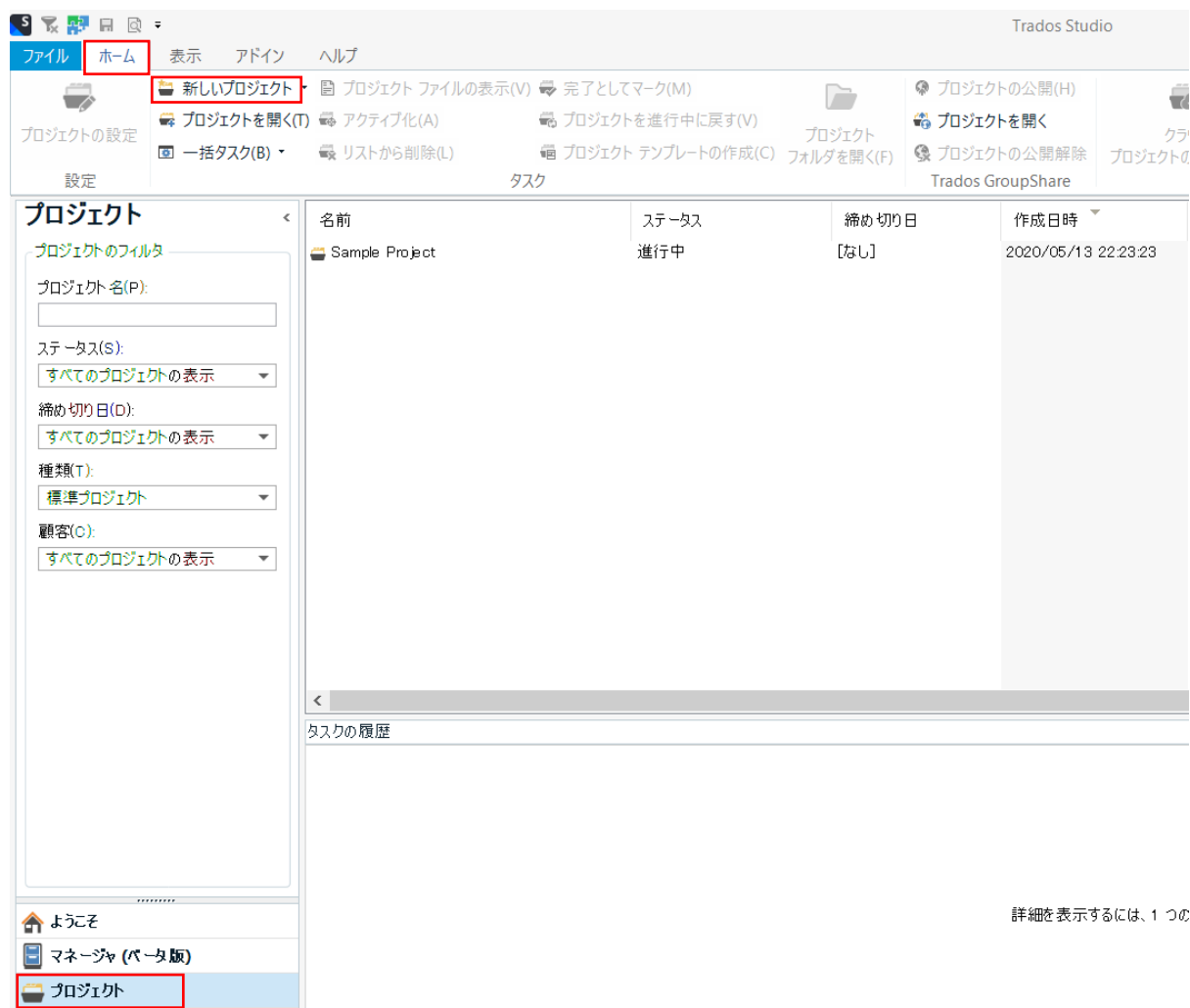


## 2. プロジェクトの作成

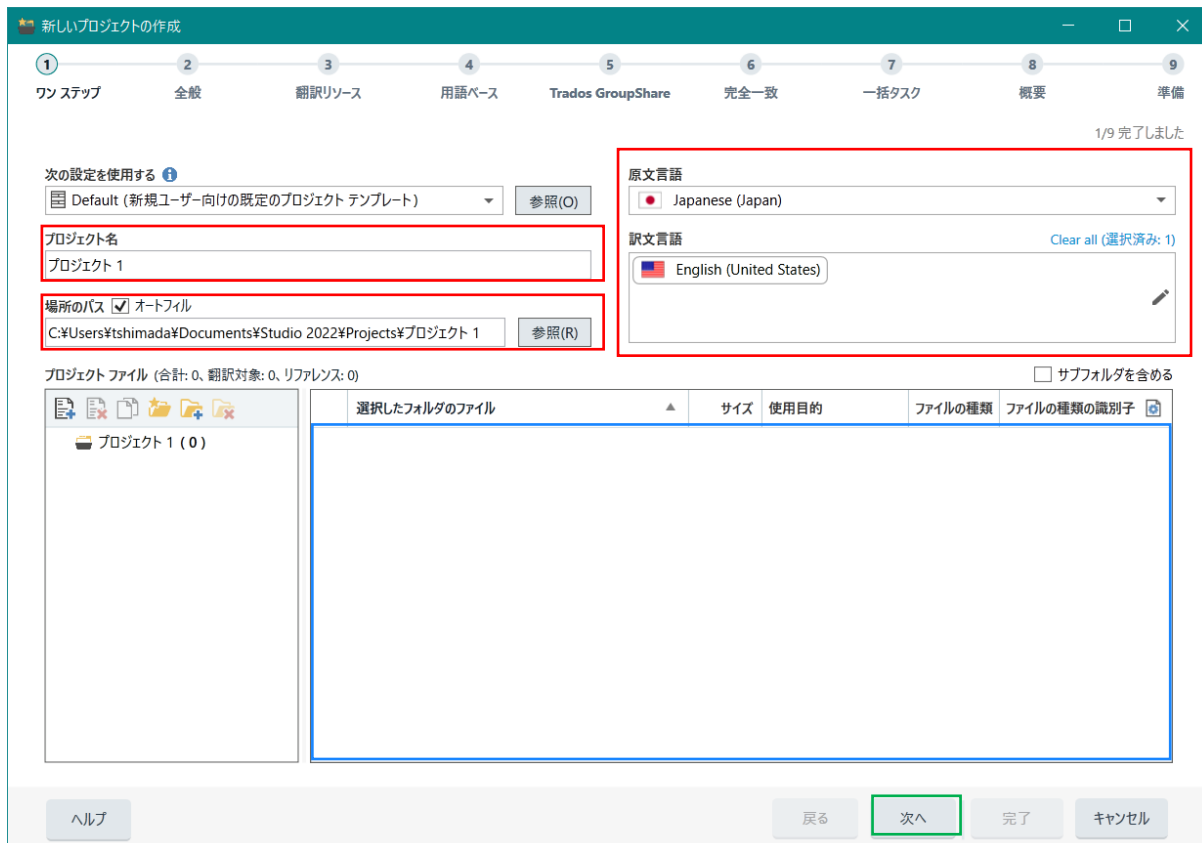
Trados Studio で翻訳を行うには、通常、「プロジェクト」と呼ばれるものを作成します。プロジェクトとは、翻訳したい 1 個または複数個の原文ファイル、Trados Studio で翻訳を行うために原文ファイルから内部的に作成されるバイリンガルファイル（.sdlxliff）、翻訳に使用する翻訳メモリ（.sdtm）と用語ベース（.sdltb）、および各種設定をひとまとめにして管理するための箱のようなものです。

プロジェクトを新規作成するには、次の操作を行います。

1. Trados の画面左下にある [プロジェクト] をクリックして [プロジェクト] ビューに移動し、画面上部のリボンで [ホーム] タブをクリックし、その下にある [新しいプロジェクト] ボタンをクリックするか、キーボードでショートカットキーCtrl+N を押します。



2. [新しいプロジェクトの作成] ウィザードが開き、[① ワン ステップ] というページが表示されます。



このページで以下の項目を設定します。

- **プロジェクト名:** 作成するプロジェクトの名前を入力します。
- **場所のパス:** 作成するプロジェクトに関連するファイルを保存する場所を指定します。ローカル PC 上のフォルダや Windows エクスプローラーからアクセス可能な共有フォルダなどを指定できます。既定では、C:\Users\<ユーザ名>\Documents\Studio 2024\Projects\ の下にプロジェクト名と同じ名前のサブフォルダが作成され、その中にプロジェクト関連ファイルが保存されますが、別の場所を指定したい場合は、[場所のパス] フィールドの右にある [参照] ボタンをクリックして任意のフォルダを指定できます。ただし、プロジェクト関連ファイルを保存できるフォルダは空のフォルダのみになります。  
([オートフィル] チェックボックスがオンになっている場合は、指定したフォルダの下にプロジェクト名と同じ名前の空のサブフォルダが自動的に作成されます。)
- **原文言語:** 原文ファイルが何語で作成されているか（原文言語）をドロップダウンリストから選択します。[原文言語] フィールド内をクリックして「en-us」（英語（米国））や「ja-jp」（日本語（日本））などの言語コードを直接入力するとドロップダウンリストから該当

する言語を簡単に選択できます。なお、原文言語として選択できる言語は1つのみになります。

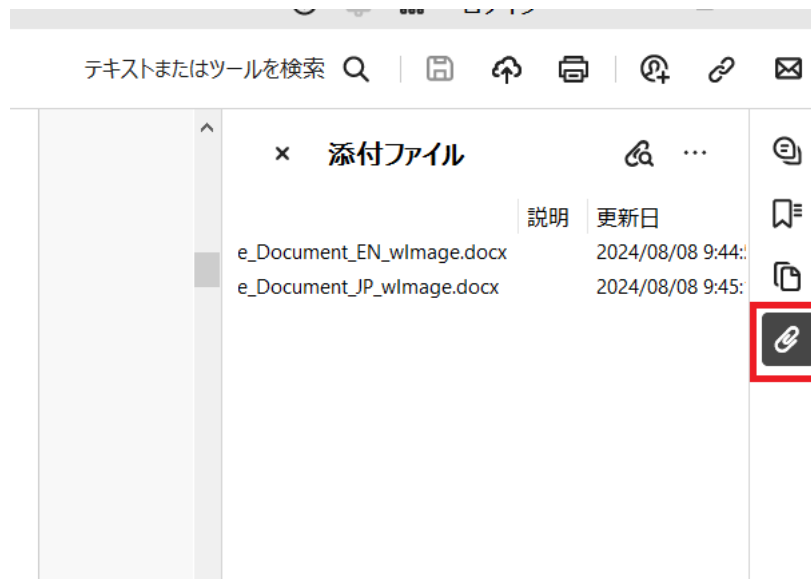
- **訳文言語:** 原文ファイルを何語に翻訳するか（訳文言語）をドロップダウンリストから選択します。訳文言語は複数指定することもできます。また、原文言語と同様に、言語コードを直接入力することもできます。

3. 上記項目を設定したら、上図の青枠内の領域に1つまたは複数の原文ファイルをドラッグ&ドロップし（原文ファイルを含むフォルダをドラッグ&ドロップすることもできます）、ウィザード下部にある[次へ]ボタンをクリックします。

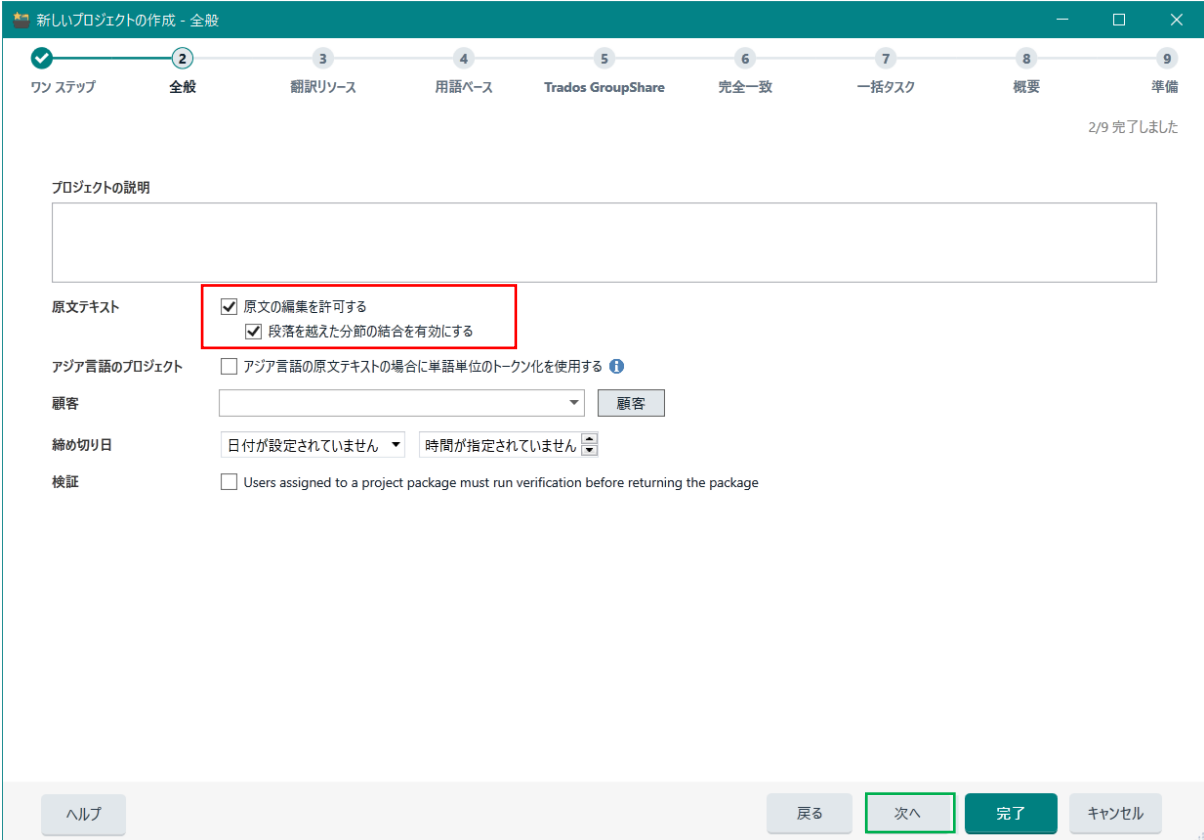
※ **原文ファイルのサンプルとしてこの PDF ファイルに日本語の Word ファイル**

**（sample\_Document\_JP\_wImage.docx）と英語の Word ファイル**

**（sample\_Document\_EN\_wImage.docx）を添付していますので、必要に応じて Adobe Acrobat の添付ファイルタブなどからファイルを開き、デスクトップなどに保存してご使用ください。**



4. [② 全般] ページに進んだら、各種オプションを必要に応じて設定します。初めて Trados Studio の機能を試す段階ではここで特に何も設定しなくても問題ありませんが、[原文の編集を許可する]（翻訳時に原文中の誤字などを発見した場合などに原文の編集も許可するオプション）と [段落を越えた分節の結合を有効にする]（原文がセンテンスの途中で別れてしまった場合などに結合できるようにするオプション）をオンにしておくことをお勧めします。各種オプションを設定した後、ウィザード下部にある [次へ] ボタンをクリックします。



新しいプロジェクトの作成 - 全般

ワンステップ ② 全般 ③ 翻訳リソース ④ 用語ベース ⑤ Trados GroupShare ⑥ 完全一致 ⑦ 一括タスク ⑧ 概要 ⑨ 準備

2/9 完了しました

プロジェクトの説明

原文テキスト

- ☒ 原文の編集を許可する
- ☒ 段落を越えた分節の結合を有効にする

アジア言語のプロジェクト

- ☐ アジア言語の原文テキストの場合に単語単位のトークン化を使用する ⓘ

顧客

締め切り日

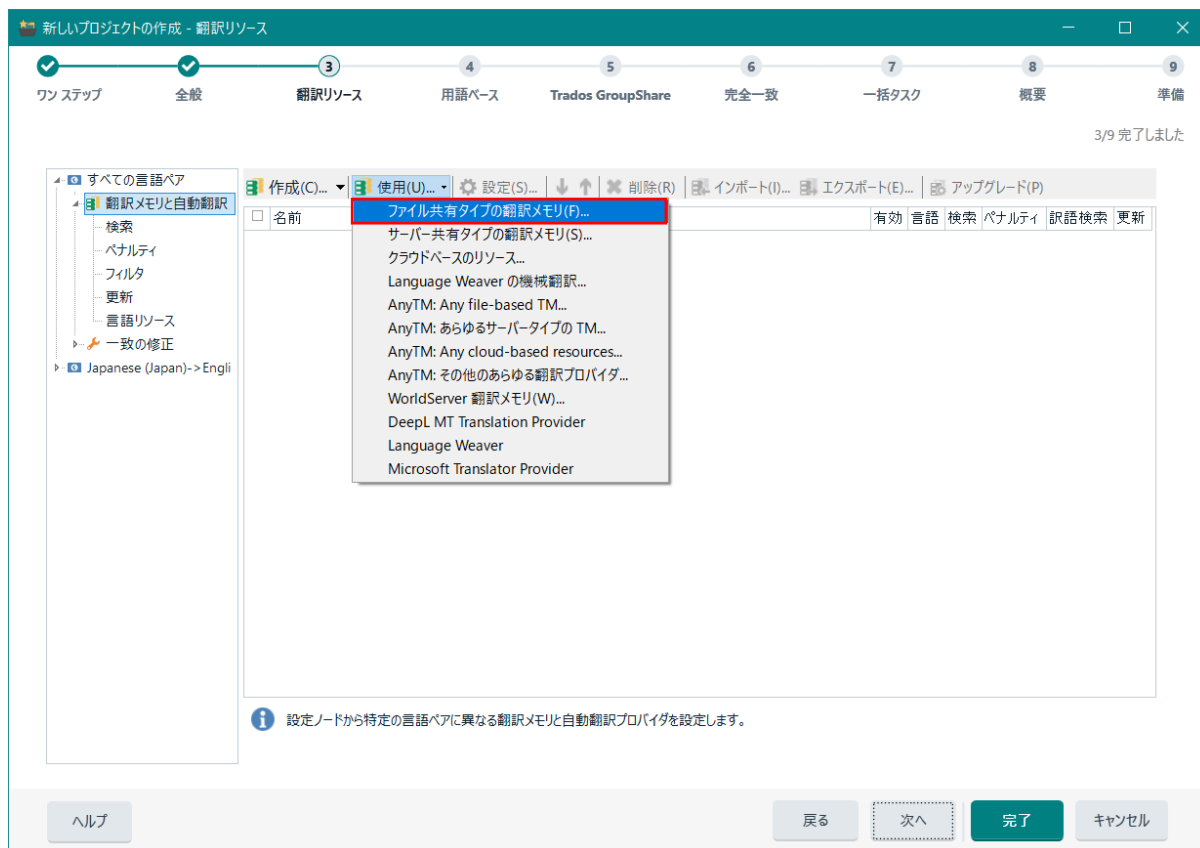
日付が設定されていません 時間が指定されていません

検証

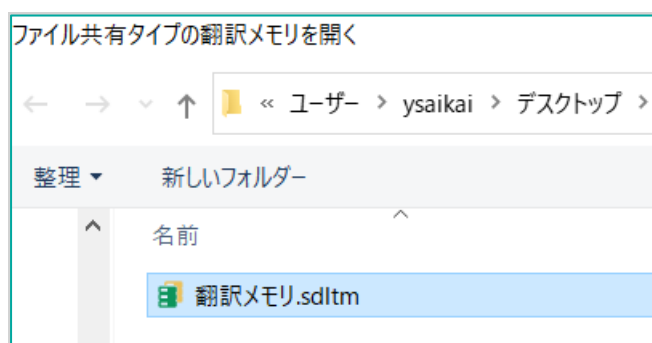
- ☐ Users assigned to a project package must run verification before returning the package

ヘルプ 戻る 次へ 完了 キャンセル

5. [③ 翻訳リソース] ページに進んだら、[使用]>[ファイル共有タイプの翻訳メモリ] を選択して、使用したい翻訳メモリを設定します。



翻訳メモリを選択する参照ウィンドウが起動し、使用したい翻訳メモリ（.sdltm ファイル）を選択します。なお翻訳メモリは複数選択することも可能です。

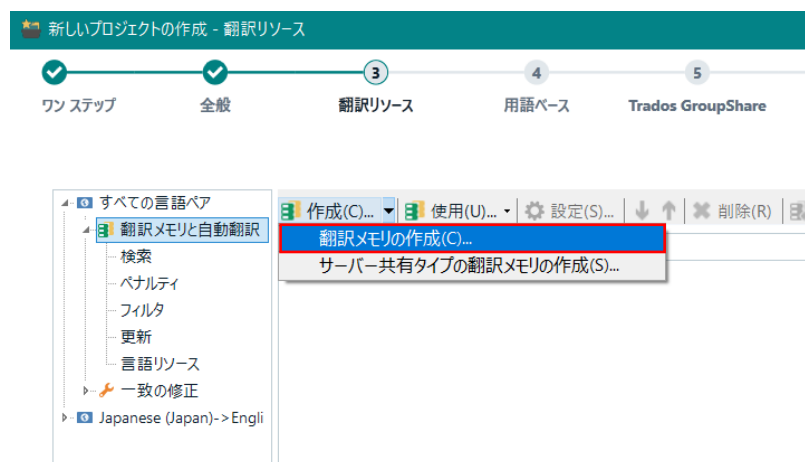


翻訳メモリを選択したら、ウィザード下部にある [次へ] ボタンをクリックします。



### 【参考：翻訳メモリを新しく作る】

Trados Studio を初めてお使いになる場合、翻訳メモリはゼロの状態からスタートとなります。翻訳メモリがなく、新規で作成をする場合は [作成] > [翻訳メモリの作成] を選択します。



翻訳メモリの名前、保存場所、言語を選択し [完了] をクリックします。上部にある [フィールド] と [言語リソース] はデフォルトの設定から変更しなくても問題ありません。慣れたらご活用いただきたい中・上級者向けの機能です。



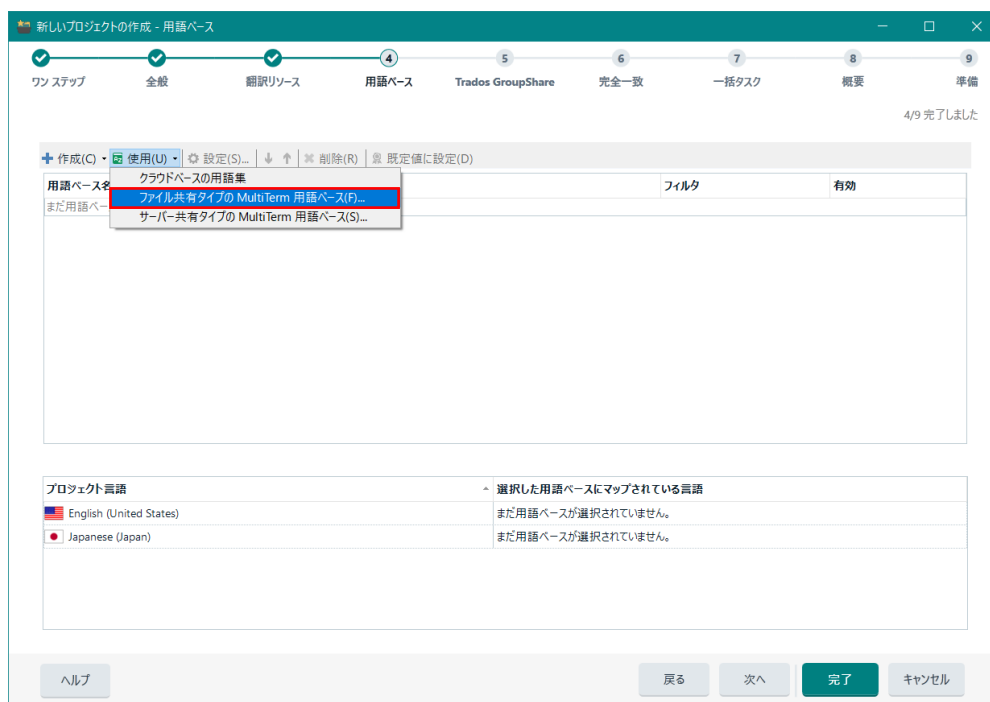
[完了]をクリックすると、新しい空の翻訳メモリが作成されます。これから翻訳するデータは、この空の新規メモリにも登録されていきます。このように、ここのステップで新しく翻訳メモリを作成することも可能です。

### 【参考：機械翻訳を利用する】

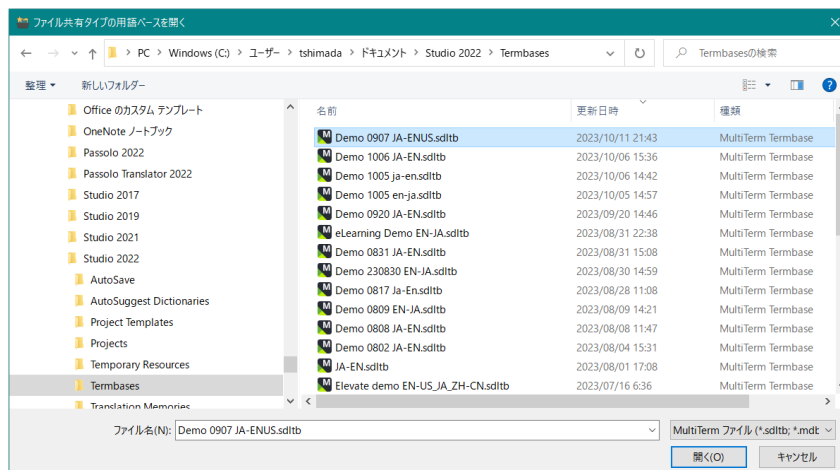
RWS からトライアルライセンスが提供されている場合、翻訳メモリとともに機械翻訳（Language Weaver）を利用できます。

Trados Studio での機械翻訳の利用方法について詳しくは、こちらの[ブログ記事](#)をご覧ください。

6. [④ 用語ベース] ページに進んだら、[使用] > [ファイル共有タイプの MultiTerm 用語ベース] を選択して、使用したい用語ベースを設定します。



用語ベースを選択する参照ウィンドウが起動し、使用したい用語ベース（.sdltb ファイル）を選択します。なお用語ベースは複数選択することも可能です。

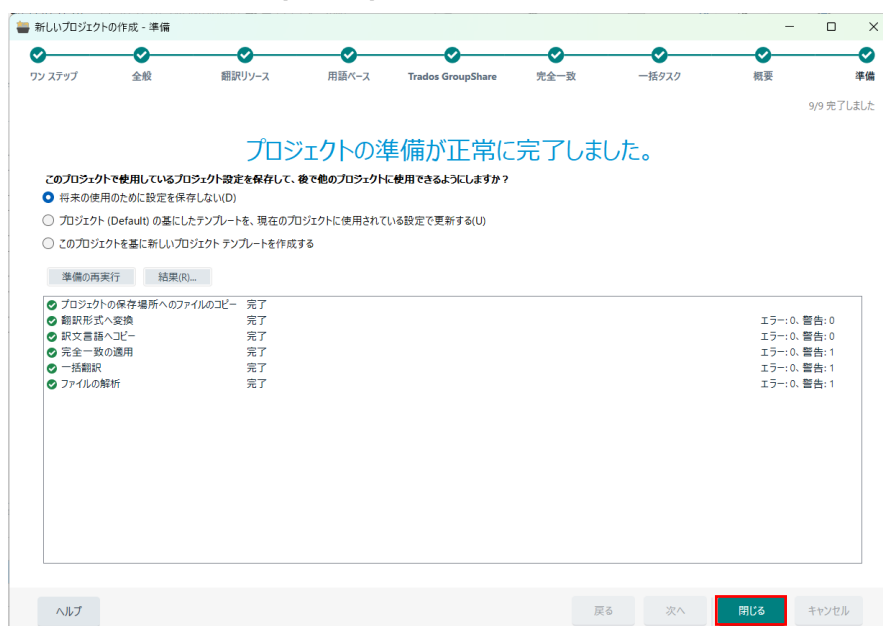


使用したい用語ベースを選択した後（あるいは、既存の用語ベースがない場合は何も選択せずに）ウィザード下部にある [次へ] をクリックします。

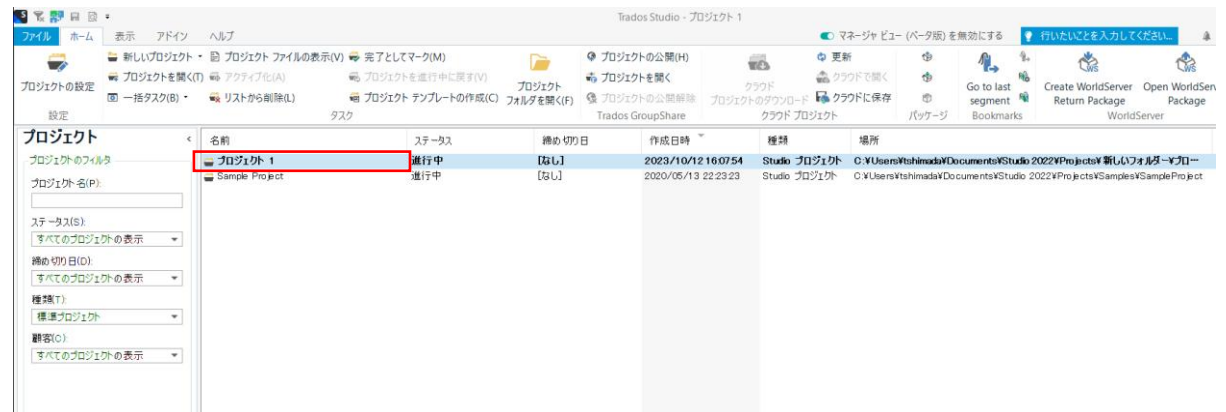
7. その後に表示される [⑤ Trados GroupShare]、[⑥ 完全一致]、[⑦ 一括タスク]、[⑧ 概要] の各ページに含まれる設定項目は中・上級者向けになるため、初めて Trados Studio の機能を試す段階では特に何も設定しなくても問題ありません。ウィザード下部にある [完了] ボタンをクリックしてプロジェクトの作成を開始します。



8. 「プロジェクトの準備が正常に完了しました」というメッセージがウィザードに表示されたら、ウィザード下部にある [閉じる] ボタンをクリックします。



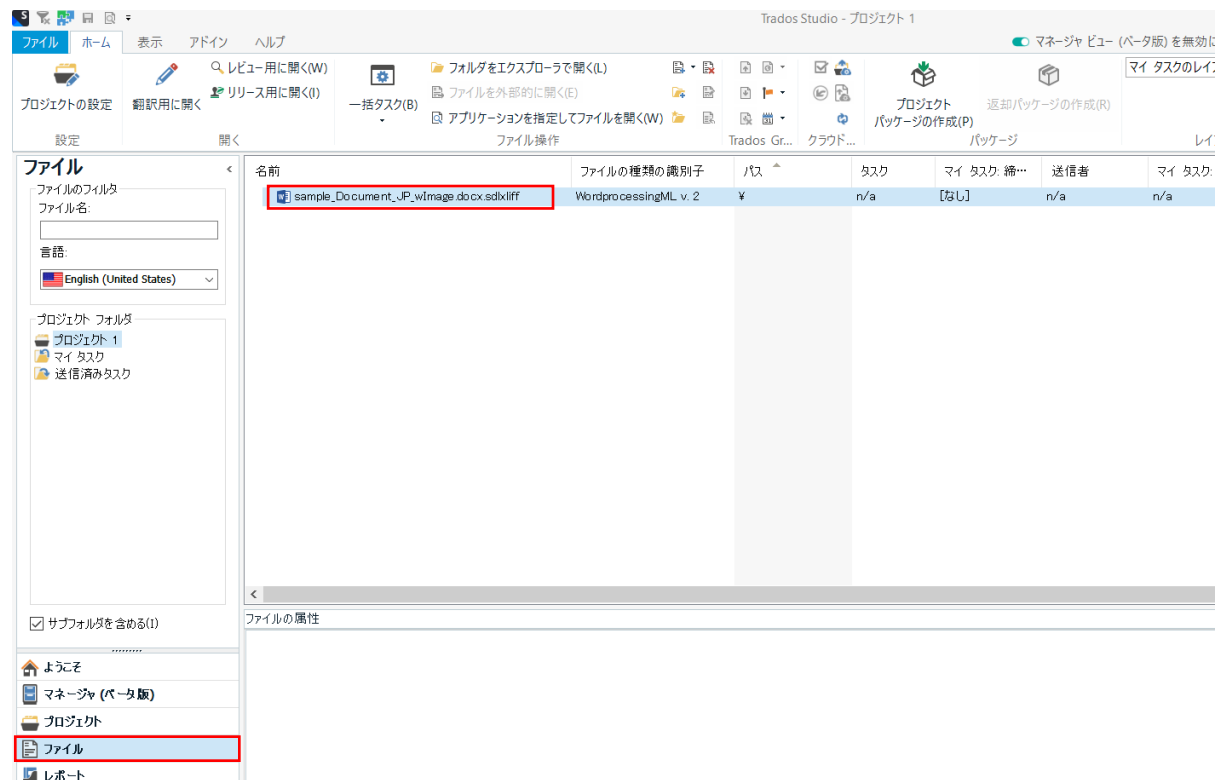
9. [プロジェクト] ビュー中央のプロジェクト一覧に、新規作成したプロジェクトが表示されます。



**メモ:** 上記のように [プロジェクト] ビューからプロジェクトを新規作成する方法のほか、[ようこそ] ビューから簡易的な設定で少数の原文ファイルを読み込んでプロジェクトを作成したり、プロジェクトの作成を省略して 1 個のファイルのみをすばやく翻訳したりする方法もあります。詳しくは、[参考: \[ようこそ\] ビューからの原文ファイルの取り込み](#)」を参照してください。

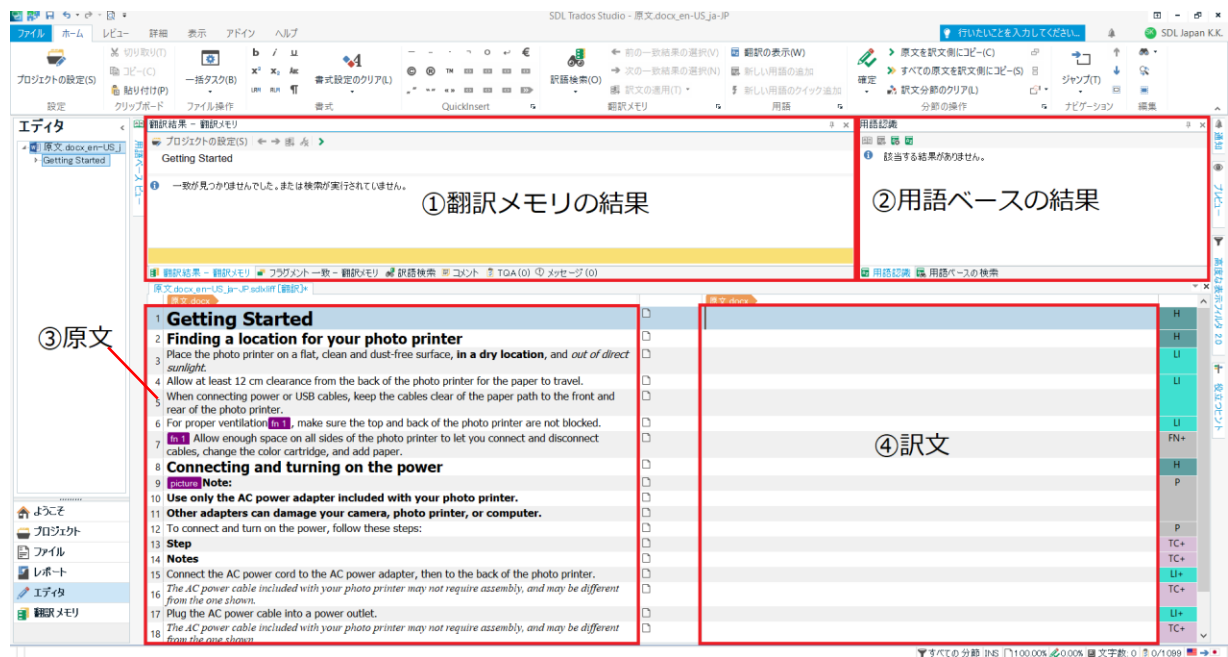
### 3. 翻訳作業の基本

[プロジェクト] ビューのプロジェクト一覧で、翻訳したいファイルを含むプロジェクトの名前をダブルクリックすると自動で [ファイル] ビューに切り替わり、選択したプロジェクトに含まれるファイルの一覧が表示されます。



ここで、翻訳したいファイルをダブルクリックすると、自動で [エディタ] ビューに切り替わります。

ここから翻訳作業を進めていきます。

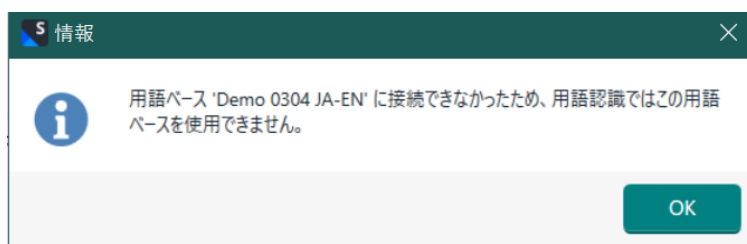


- ① 翻訳メモリの検索結果を表示するウィンドウです。
- ② 用語ベースの検索結果を表示するウィンドウです。
- ③ 取り込んだ原文が1文ずつ区切られ、表示されます。
- ④ 原文に対応する訳文を入力していきます。

【参考：翻訳メモリや用語ベースが見つからないというメッセージが表示された場合の確認事項】

Trados Studio を起動した際や、[プロジェクト] ビューで特定のプロジェクトをダブルクリックした際や、バイリンガルファイルを開いた際に翻訳メモリまたは用語ベースが見つかりませんでしたという下図のようなメッセージが表示された場合は、翻訳メモリまたは用語ベースがプロジェクトの作成後に移動されたか、ファイル名が変更されたか、指定された場所にアクセスできなくなっている可能性があります。

この場合は、[OK] をクリックして翻訳メモリまたは用語ベースの場所（またはファイル名）を正しく指定し直します。

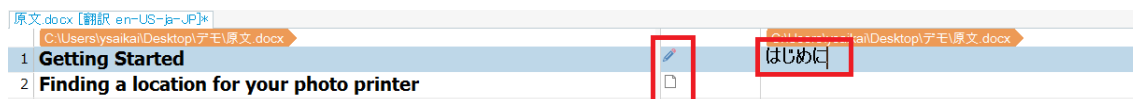


**注：** 翻訳メモリや用語ベースがネットワーク上の共有フォルダに配置されている場合、\\ で始まる UNC パス（例：\\Server2\Share\Test\test.sdltb）を使用して翻訳メモリや用語ベースの場所を指定すると上記のようなメッセージが表示される場合があります。

この問題が発生した場合は、翻訳メモリまたは用語ベースをローカルドライブにコピーしてローカルドライブ上のコピーの場所を指定するか、[Windows エクスプローラーでネットワークドライブの割り当て](#)を行い、ドライブ文字から始まるファイルパス（例：D:\Share\Test\test.sdltb）を使用して翻訳メモリや用語ベースの場所を指定してください。

### 3-1. 訳文の入力

訳文領域で該当分節にカーソルを合わせ、訳文を入力していきます。



例えば、1 番目の分節を選択し「はじめてに」という訳文を手で入力します。

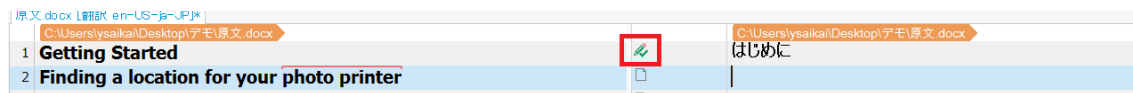
中央の列はステータスを示しており、翻訳中は鉛筆マークで表示されます。

(2 番目の分節は何も編集をしていないため、白紙のマークが表示されています。)

訳文の入力が完了したら、画面上部リボンの [確定] を選択、もしくはショートカットキー「Ctrl+Enter」を入力し分節を確定します。



確定すると、ステータス列では鉛筆にチェックマークが付き分節が確定されます。



「確定」をする意味は 3 つあります。

- ・分節のステータスが確定（鉛筆＋✓マーク）になる
- ・このタイミングで分節が翻訳メモリへ登録される
- ・カーソルが次の分節へ移動する

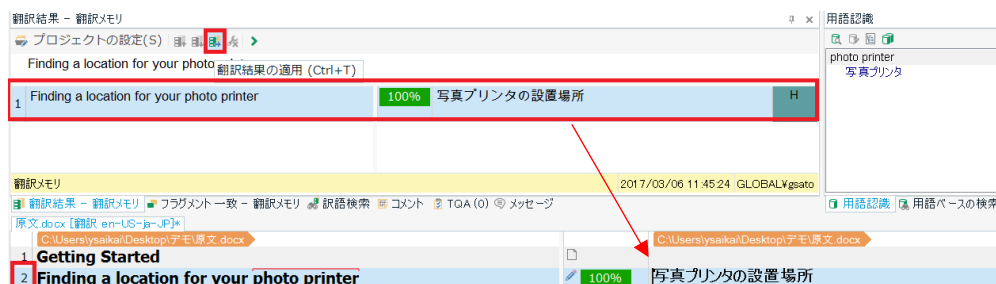
このように、1 文ずつ翻訳作業を進めていきます。登録をした分節と同一/類似の分節が今後出てくる際には、登録した分節を流用できることになります。

### 3-2. 翻訳メモリの利用

2 番目の分節を選択すると翻訳メモリの検索結果が①の翻訳メモリウィンドウに表示されました。過去に 100%同じ文を訳し登録したことがあることを意味しています。



デフォルトの設定では、翻訳メモリの候補があると自動で訳文側へ挿入されます。

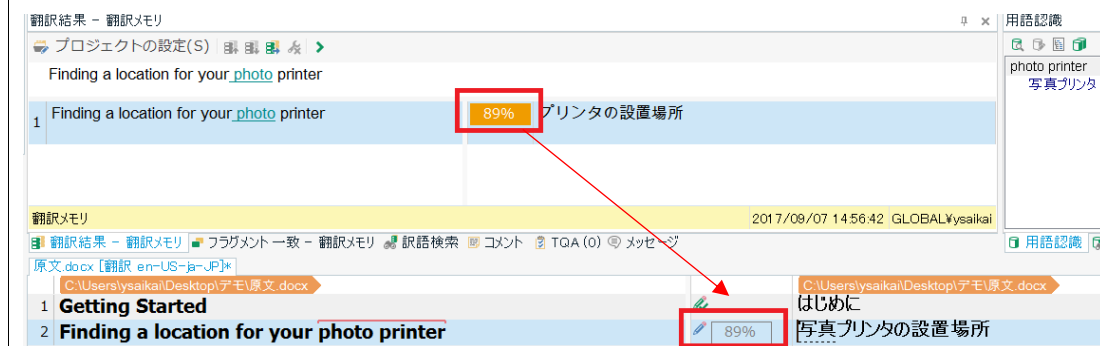


修正の必要がある場合は翻訳メモリ結果を挿入後に修正を行い、内容に問題がなければ確定します。

#### 【参考：あいまい一致】

翻訳メモリに登録されている文と類似するものは90%や80%一致などとして検索候補が表示されます。例えば、2番目の分節に対し、翻訳メモリの検索結果に「photo」がなかったとしたら、1単語分の違いがあり89%一致などとして表示されます。訳文側には正しく「写真」が入っていないため、翻訳メモリの検索結果を適用後、差分の「写真」は手で補います。

翻訳メモリの結果を編集すると、ステータス列の%アイコンの色が消えます。翻訳者はここから翻訳メモリの結果を適用後、編集を加えたかどうかを判別できます。



#### 【参考：タグと固定要素の挿入】

原文に固定要素（テキストの書式、タグ、数字、変数、日付など）が含まれる場合、[エディタ]ビューで固定要素を挿入する位置にカーソルを置き、Ctrl+, (カンマ) キーを押すと、原文分節から挿入できる固定要素がドロップダウンリストに表示されます（QuickPlace 機能）。

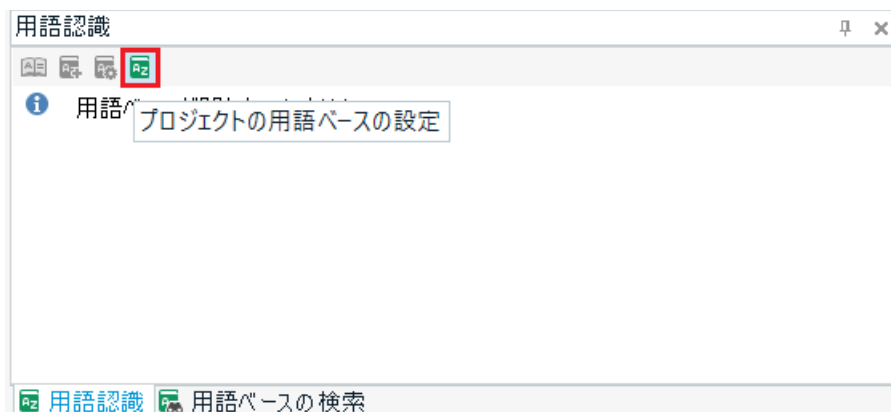


このリストから、挿入したい固定要素を上下矢印キーで選択して Enter キーを押すか、ドロップダウンリスト内の固定要素をダブルクリックすると、訳文内のカーソル位置に固定要素が挿入（コピー）されます。

### 3-3. 用語ベースの利用

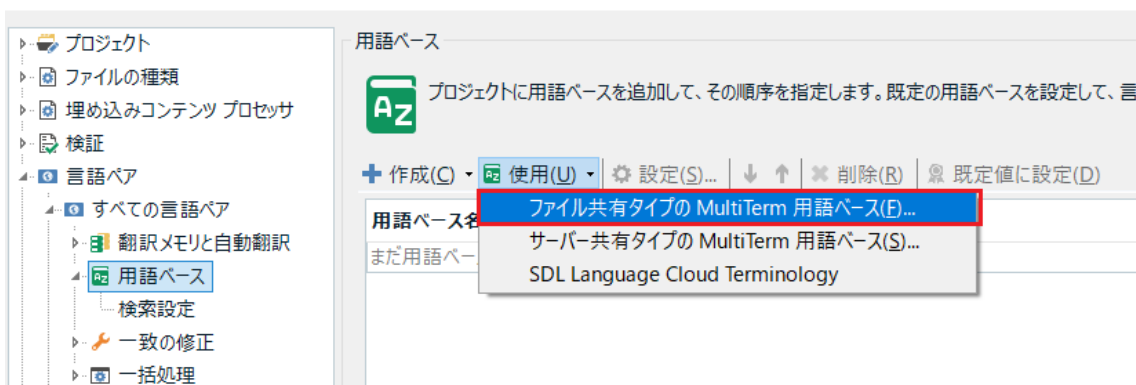
翻訳プロジェクトに用語ベースも紐付けます。

上のエディタ画面の図にある② 用語ベースウィンドウで、[プロジェクトの用語ベースの設定] を選択します。

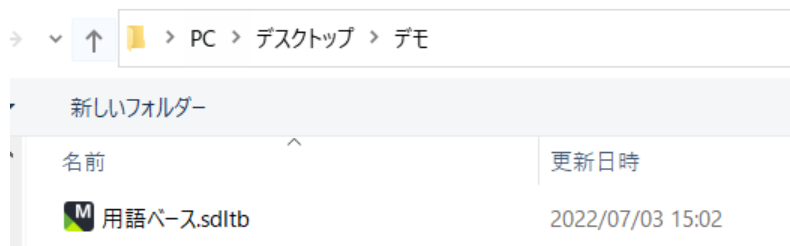


[設定] ウィンドウが起動します。[使用] > [ファイル共有タイプの MultiTerm 用語ベース] を選択します。

プロジェクトの設定 - 原文.docx\_en-US\_ja-JP



ファイルを選択する参照画面が起動しますので、使用したい用語ベースを選択します。



これで用語ベースも紐づいた状態になりました。（用語ベースも複数選択できます）

3 番目の分節に移動すると、原文の「photo printer」の上に赤い線が引かれています。

これは用語ベースに登録があることを示しています。



右上②の用語ベースウィンドウに検索結果が表示されています。「photo printer」に対する訳語は「写真プリンタ」になりますのでこれを使用します。

訳文側へ反映させるには、ショートカットキー「Ctrl+Shift+L」を押します。

リストで用語が表示されますので複数ある場合は矢印キーで選択し Enter を押します。

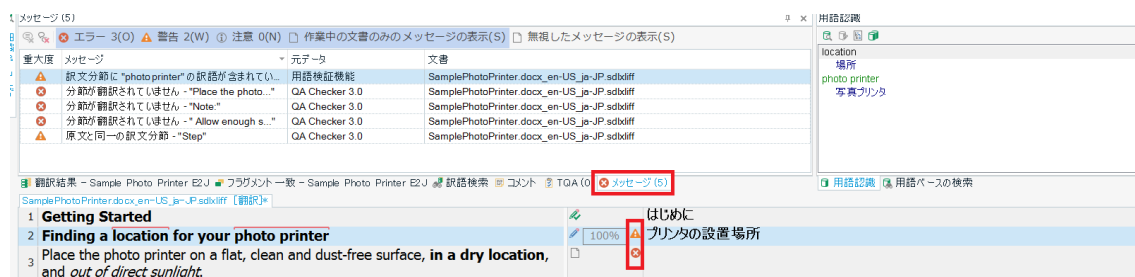
### 3-4. 検証

翻訳作業が終わったら、任意で訳文全体に対し検証（QA チェック）を行なうことができます。検証により機械的にエラーを検知し、修正を行なうことが可能です。

上部 [レビュー] タブの [品質保証] > [検証]（ショートカットキー「F8」）を選択します。



以下の例では、2 番目の分節で「photo printer」に対する訳語「写真プリンタ」が正しく使われていないことと、3 番目の分節に訳漏れがあることを教えてくれています。



エラーメッセージは①の翻訳メモリウィンドウ下部の[メッセージ]タブでまとめて確認をすることが可能です。または該当分節のエラーアイコン（！や×）にカーソルを合わせるとエラーの内容がポップアップで表示されます。

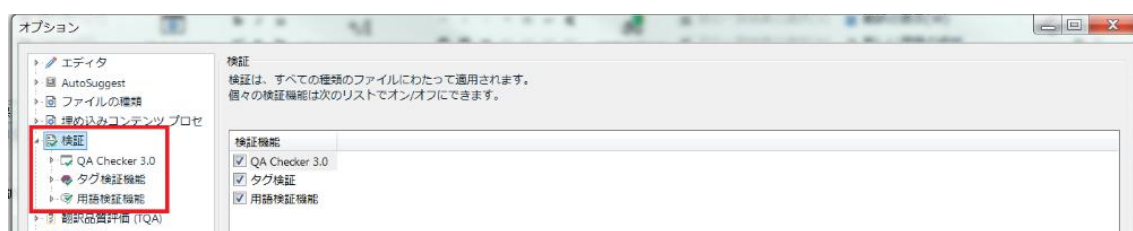
検証できるエラーは、「用語の未使用」や「訳漏れ」の他にもさまざまあり、オプションで細かく設定ができます。検証項目のうち一部を以下に挙げます。

- ・ 1つの原文に対して違う訳文がないか
- ・ 原文と訳文内の数値の違い
- ・ 禁止用語の使用

などです。

検証項目の設定はオプションまたはプロジェクトの設定から行うことが可能です。

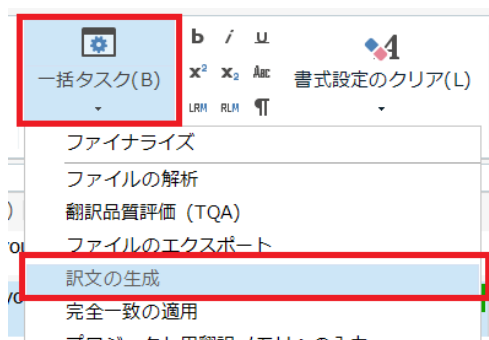
画面左上の[ファイル]タブの[オプション]>[検証]から設定項目を変更できます。



### 3-5. 訳文の生成

翻訳が完了したら「訳文の生成」を実行して、訳文を元のファイル形式で生成します。

上部リボンの[一括タスク]>[訳文の生成]を選択し、[完了]をクリックします。



原文ファイルが格納されているフォルダに訳文ファイルが生成されます。訳文ファイルは原文ファイルと同じ形式（Word なら Word）で出力されます。

以上が基本的な翻訳作業の流れとなります。

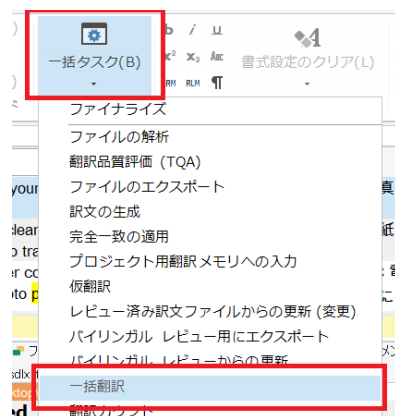
## 4. 翻訳時に利用する機能

翻訳時に利用できる便利な機能をご紹介します。

### 4-1. 一括翻訳

翻訳メモリから該当のある訳文をまとめて訳分列に挿入することが可能です。

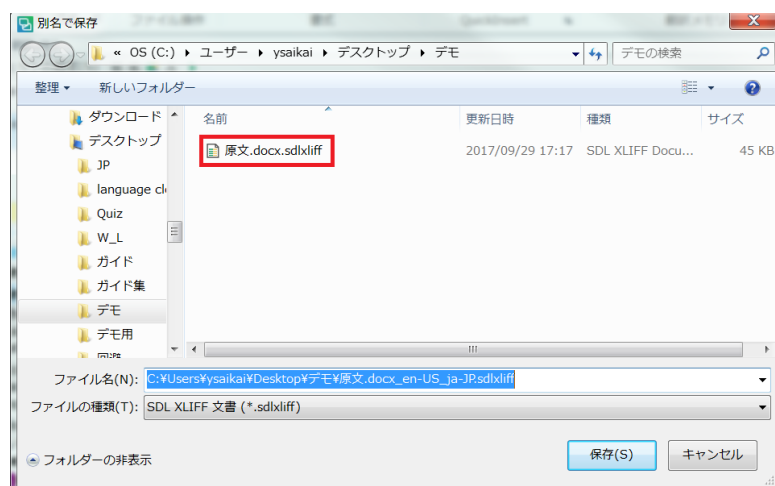
上部リボンの [一括タスク] > [一括翻訳] を選択します。



※一括タスクを初めて選択すると SDLXLIFF ファイルの保存ウィンドウが立ち上がりますので、保存を  
すると一括タスクの項目一覧が表示されるようになります。

## 【SDLXLIFF とは】

[エディタ] ビューで表示されている対訳形式の情報が入っているファイルです。原文の形式に関わらずに共通で生成される.sdlxliff という拡張子の中間ファイルとなります。デフォルトでは原文ファイルが格納されているフォルダに保存されます。



[一括翻訳] をクリックすると、設定ウィンドウが起動します。[次へ] を選択し、[一致率の最小値] に一括で入れたい候補の最小の一致率を入力します（デフォルトでは 100 になっています）。例えば 90 と入力すると、90%以上一致する文のみが翻訳メモリから訳文へ一括で挿入されます。

一括処理

## 設定

選択したタスクに関連する設定を確認し、[完了] をクリックしてタスクの実行を開始してください。



ヘルプ

戻る

次へ

完了

キャンセル

このように、90%マッチ以上の該当のある分節が一括で埋まり、1文ずつ挿入していく手間を省くことができます。

1 <b>Getting Started</b>	100%	はじめに
2 <b>Finding a location for your photo printer</b>	98%	写真プリンタの設置場所
3 Place the photo printer on a flat, clean and dust-free surface, <b>in a dry location</b> , and out of direct sunlight.	100%	写真プリンタを、平らで、埃や湿気がなく、直射日光の当たらない場所に設置します。
4 Allow at least 12 cm clearance from the back of the photo printer for the paper to travel.	100%	給紙のために、写真プリンタの背後は 12cm 以上空けます。
5 When connecting power or USB cables, keep the cables clear of the paper path to the front and rear of the photo printer.	100%	
6 For proper ventilation <b>in 1</b> , make sure the top and back of the photo printer are not blocked.	98%	排気 <b>in 1</b> のために、写真プリンタの背後を物で塞がないように注意してください。
7 <b>in 1</b> Allow enough space on all sides of the photo printer to let you connect and disconnect cables, change the color cartridge, and add paper.	100%	ケーブルの接続、カラートナーカートリッジの交換などをスムーズに行うため、写真プリンタの周りにはスペースを空けておくことをお勧めします。
8 <b>Connecting and turning on the power</b>	100%	電源を接続してオンにする

改版・改訂などの翻訳を行なう場合は、一括翻訳を使用することで前版の内容を一括で埋め、新規の差分のみに集中して翻訳することができ、特に便利です。

## 4-2. 訳語検索

翻訳メモリに一致する分節がない場合でも原文の一部を選択して翻訳メモリ内を検索することができます。例えば、原文側で「printer」を選択しショートカットキー「F3」を押します。翻訳メモリ内で「printer」が含まれる文を検索し①の翻訳メモリウィンドウに結果が表示されます。検索ボックスに直接検索ワードを入力しても探すことができます。

※①ウィンドウは下部のタブを切り替えることで、翻訳メモリ検索結果に加えて訳語検索結果やコメント、検証メッセージを確認することが可能です。



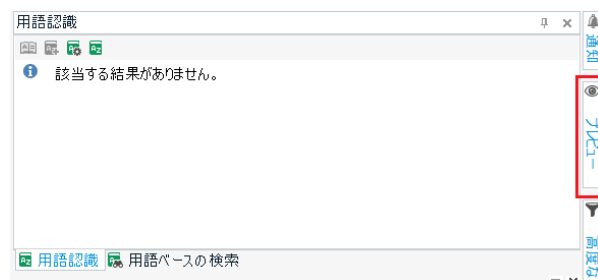
訳語検索は、翻訳メモリを検索結果が無く、用語ベースにも登録がない場合などに便利な機能です。  
(文単位では一致率が低すぎて候補がないが、特定の一部分を検索したい場合など)

また upLIFT という技術を使用し、さらに翻訳メモリの結果を多く得ることが可能です。

[こちらのナレッジベース記事](#)をご参照ください。

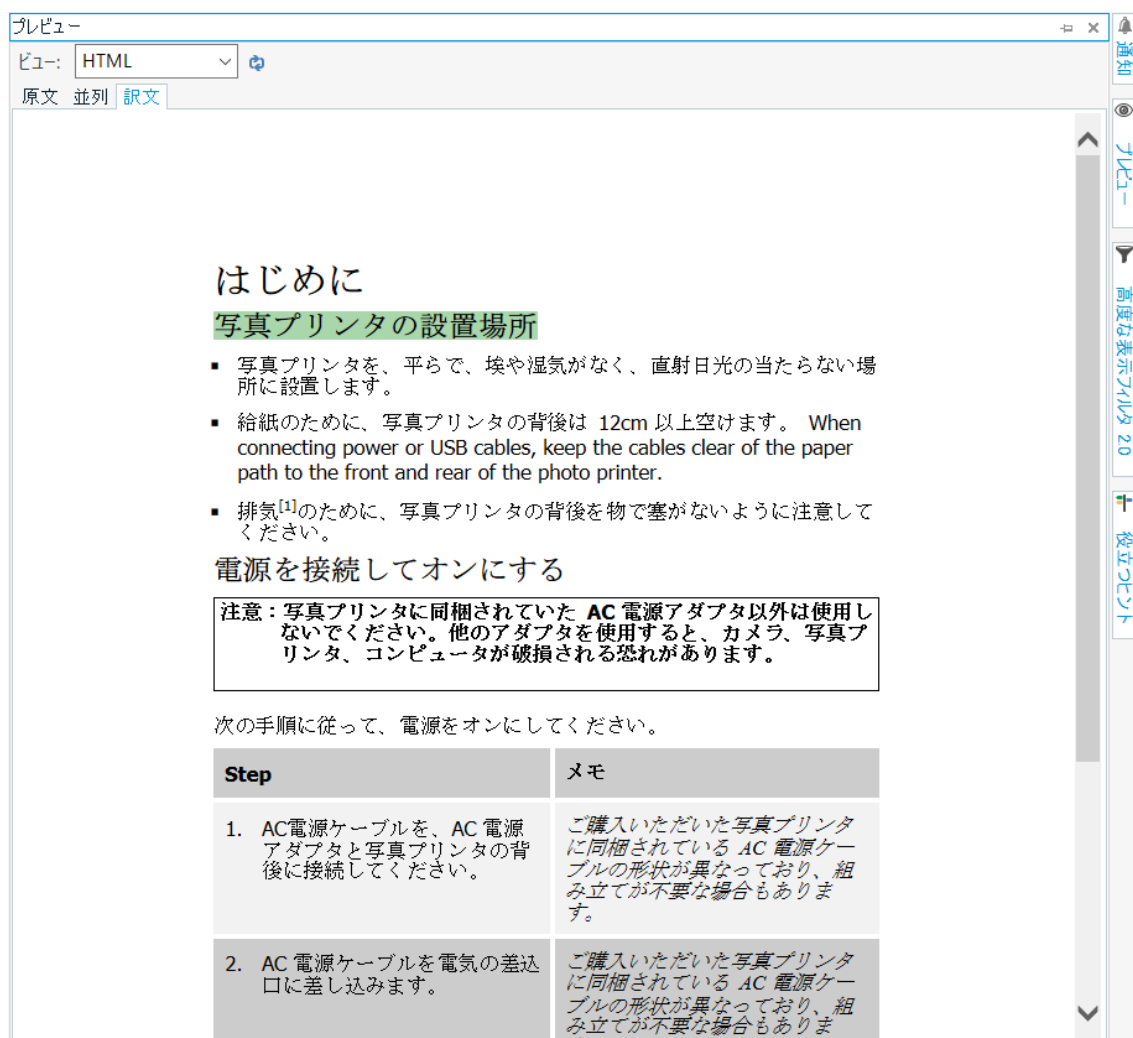
### 4-3. プレビュー

原文と同じレイアウトで翻訳の進捗状況を確認することができます。画面右端にある [プレビュー] を選択します。取り込んだ原文のファイル形式（本例では word）上で進捗を確認することができます。



翻訳中にレイアウトを確認することで、タイトルや本文など場所に応じた適切な翻訳を行うことができます。ハイライトされているのは [エディタ] ビュー上で選択中の分節です。

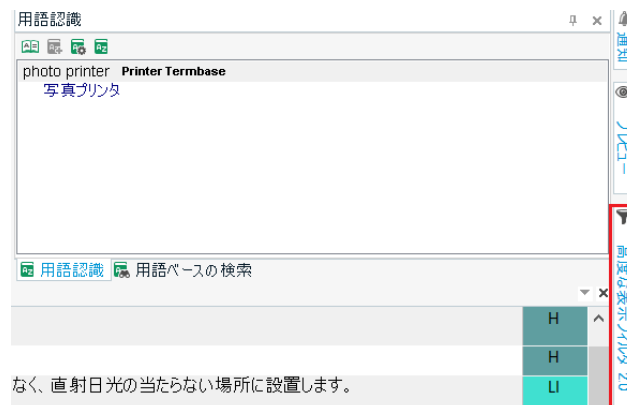
また未翻訳の分節には原文が表示されます。





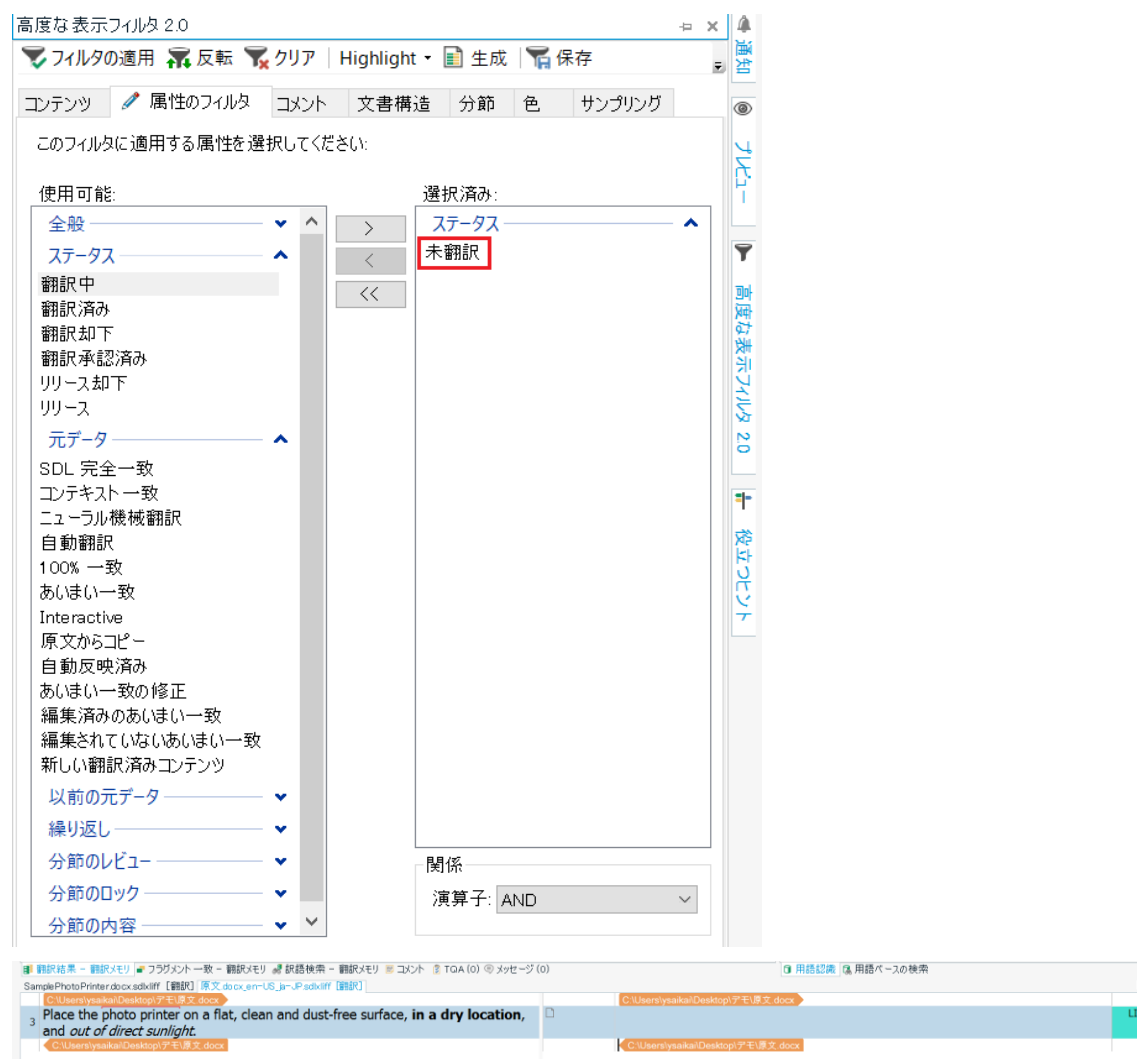
## 4-4. フィルタ

[エディタ] ビューで表示される分節を条件づけし該当する分節だけを表示することができます。画面右端にある [高度な表示フィルタ 2.0] を選択します。



なく、直射日光の当たらない場所に設置します。

様々な条件を設定することができますが、例えば [属性のフィルタ] タブで [未翻訳] を右側の選択済みへ選択し、[フィルタの適用] を押すと、ステータスが未翻訳（白紙マーク）の分節だけを表示することができます。



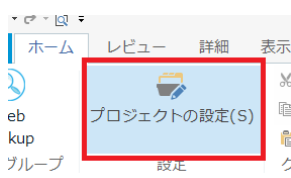
[クリア] を押すとフィルタを解除し全分節を表示します。

文書全体が長く、特定の分節のみを表示したい場合に便利な機能です。

一括翻訳後、翻訳メモリの候補が入っている分節と入っていない分節をフィルタリングする場合にも便利な機能です。翻訳メモリの候補が入っている分節は「翻訳中」、入っていない分節は「未翻訳」になります。

## 4-5. 原文の編集

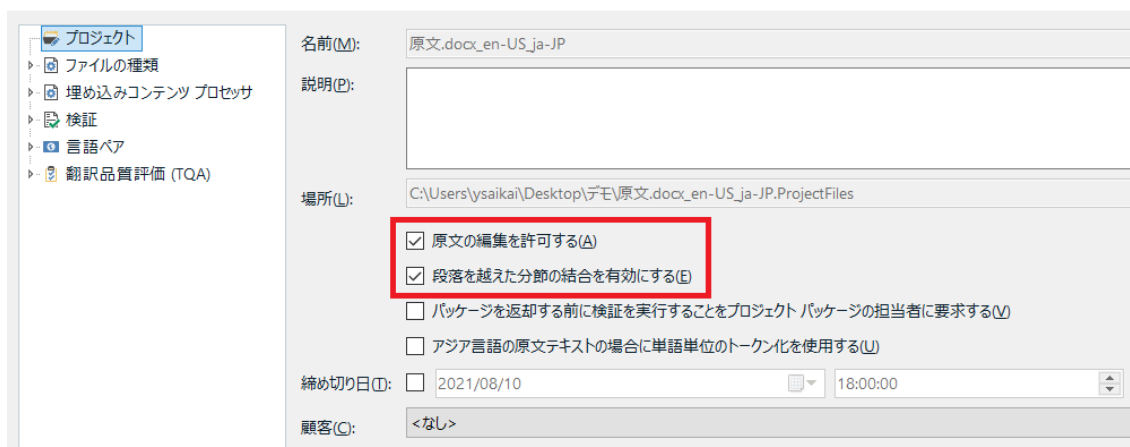
原文の内容を編集したい場合、また原文分節を結合したい場合に使える機能です。



デフォルトの状態では原文を変更できないため、事前に設定が必要です。  
[ホーム] タブの [プロジェクトの設定] を選択します。

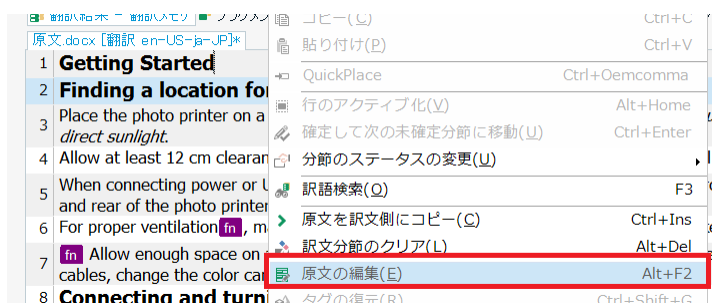
プロジェクトの設定ウィンドウが起動します。左側の [プロジェクト] を選択し、右側の [原文の編集を許可する] と [段落を越えた分節の結合を有効にする] にチェックを入れます。

プロジェクトの設定 - 原文.docx\_en-US\_ja-JP



これで、原文の編集が可能な状態となりました。

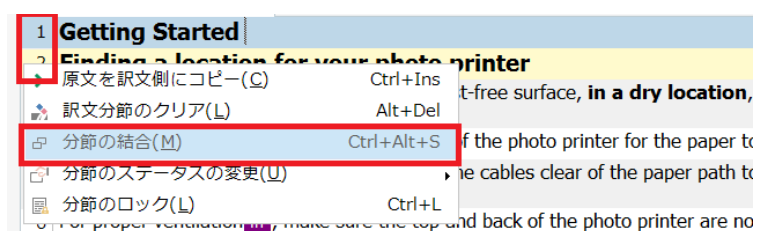
編集したい原文分節で右クリックし、[原文の編集] を選択します。



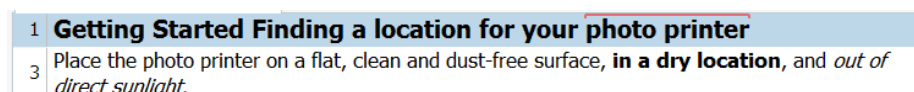
原文分節にカーソルが表示され、編集が可能になります。



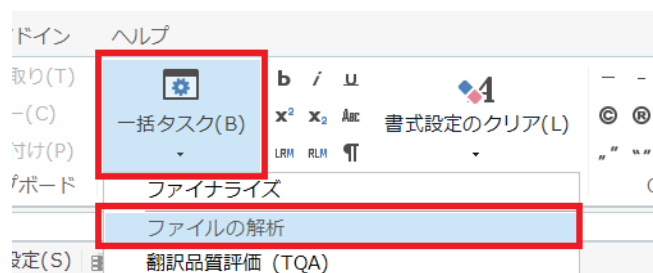
また、例えば分節 1 と分節 2 を結合したい場合、「Shift」キーを押しながら分節番号 1 と 2 を選択し右クリックから [分節の結合] を選択すると、分節を結合することができます。



分節 1 と分節 2 が 1 つに結合されました。



## 4-6. ファイルの解析



ファイルの解析を行うと、どれだけ翻訳メモリから流用できるか、翻訳文書内にどれだけ繰り返しがあるかなど、事前に解析を行うことができます。

原文ファイルを Trados Studio で開いた後、上部リボンの [一括タスク] > [ファイルの解析] を選択します。



[完了] をクリックすると解析が始まります。

解析後、画面左下から [レポート] ビューに移動すると解析結果を確認できます。

解析レポートはプロジェクト全体と各ファイル毎、それぞれで見ることができます。また Excel や xml ファイルで出力をすることも可能です。

種類	分節	単語数	文字数	パーセント	配置 修正 可能 な 単語 数	フラグメント単語 (翻訳単位全体)	フラグメント単語 (翻訳単位の一部)	AdaptiveMT の影響	タグ
完全一致	0	0	0	0.00%	0	0	0	0	0
コンテキスト一致	2	9	49	3.75%	0	0	0	0	0
繰り返し	0	0	0	0.00%	0	0	0	0	0
ファイル間の繰り返し	0	0	0	0.00%	0	0	0	0	0
100%	15	186	840	77.50%	9	0	0	0	1
95% - 99%	3	45	210	18.75%	6	0	0	0	6
85% - 94%	0	0	0	0.00%	0	0	0	0	0
75% - 84%	0	0	0	0.00%	0	0	0	0	0
50% - 74%	0	0	0	0.00%	0	0	0	0	0
新規/AT	0	0	0	0.00%	0	0	0	0	0
AdaptiveMTのベースライン	0	0	0	0.00%	0	0	0	0	0
学習機能を搭載した AdaptiveMT	0	0	0	0.00%	0	0	0	0.00%	0
合計	20	240	1099	100%	15	0	0	0.00%	7

## 5. 翻訳ファイルの取り扱い

Trados で使用する翻訳メモリ、用語ベース、原文ファイルなどは通常、各クライアント PC のローカル環境（お使いの PC 上）に保存されます。Trados アプリ自体にデータが保存されるのではなく、ローカル PC 上にあるファイルを Trados から参照している、という位置づけになります。

そのためローカルにあるファイルを共有することで、違う端末へデータを引き継ぐことや、他のユーザとデータを共有することも可能です。トライアル中に作成するデータも消さずに保存をしておくことで、本番環境でまた使用を再開できます。

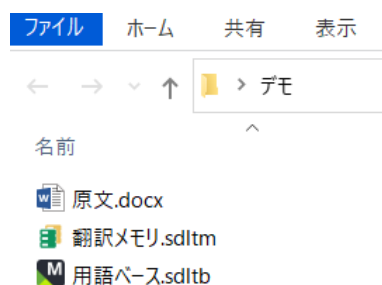
なお Trados Live（付属のクラウド環境）上にプロジェクトやリソースを保存する場合は、クラウド上にデータが存在しています。ファイルの移動をせずとも、別の端末からクラウド上のリソースにすぐにアクセスをすることが可能です。

## 参考: [ようこそ] ビューからの原文ファイルの取り込み

[プロジェクト] ビューからプロジェクトを新規作成する方法のほか、[ようこそ] ビューから簡易的な設定で少数の原文ファイルを読み込んでプロジェクトを作成したり、プロジェクトの作成を省略して 1 個のファイルのみをすばやく翻訳したりする方法もあります。

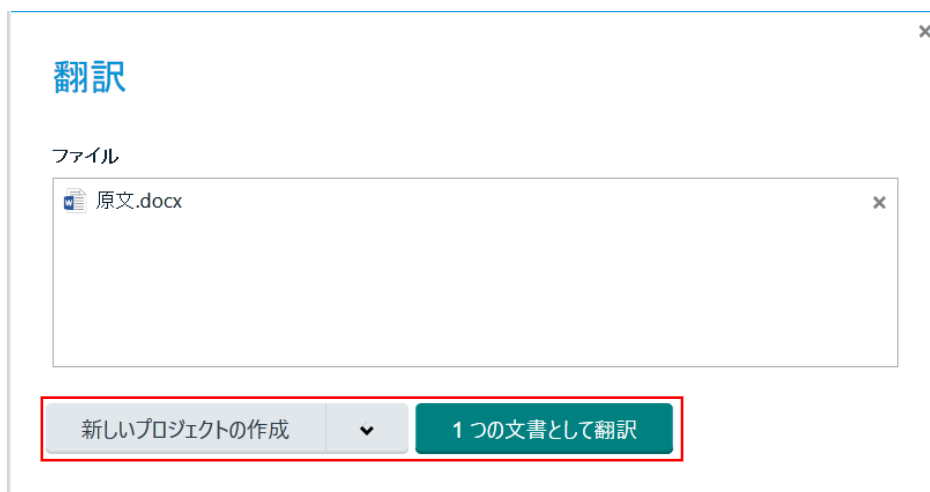
これを行うには、[ようこそ] ビューの点線枠の部分 [翻訳対象ファイルをドラッグするか、コンピュータの[参照]を実行します] をクリックします。ファイルを選択する参照ウィンドウが起動しますので翻訳を行う原文ファイルを指定します。この際、点線枠の部分へ原文ファイルをドラッグ&ドロップしても取り込むことができます。

※本ガイドでは Microsoft Word の例をご紹介します。原文は英語、訳文は日本語です。



原文の Word ファイル（原文.docx）を選択します。

原文ファイルを選択すると 2 つのオプションが表示されます。



2つのオプションはそれぞれ以下の場合に適しています。

#### 【新しいプロジェクトの作成】

- ・ 原文ファイルが複数ある場合
- ・ 訳文言語が複数ある場合
- ・ 細かな設定を事前に行いたい場合
- ・ Trados Live（クラウド）上にプロジェクトを作成したい場合

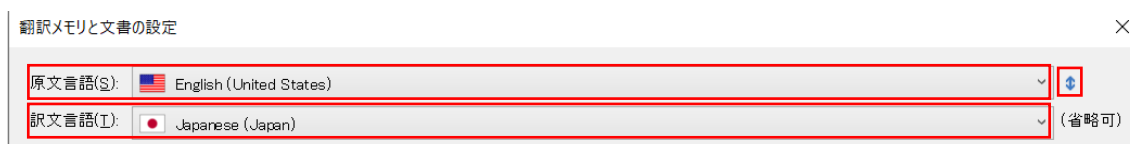
#### 【1つの文書として翻訳】

- ・ 原文ファイルが1つの場合
- ・ 訳文言語が1つの場合
- ・ 少ないステップですぐに翻訳を開始したい場合

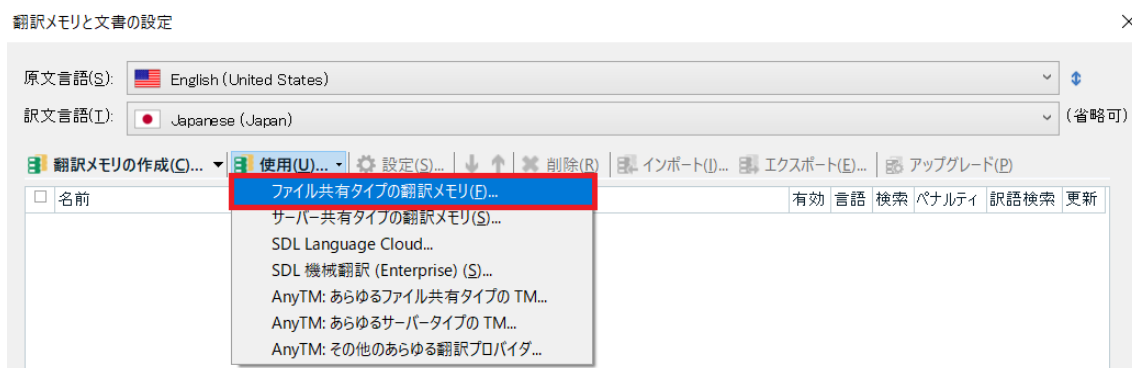
初めてお使いになる際は、「1つの文書として翻訳」から進めるのが簡単です。

本ガイドでは、[1つの文書として翻訳] を選択します。

次に、原文言語と訳文言語を選択します。プルダウンの言語一覧から言語を選択します。原文言語と訳文言語を入れ替えたい際は、右側の小さい矢印を選択することで入れ替えることができます。



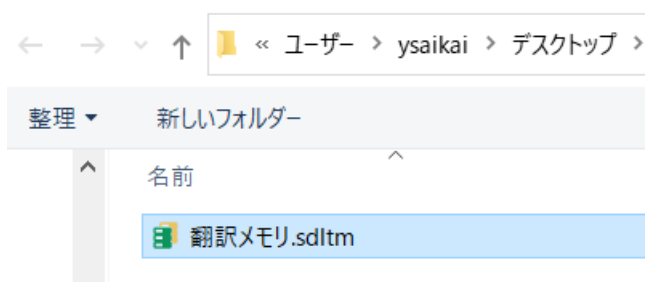
使用したい翻訳メモリを選択します。[使用] > [ファイル共有タイプの翻訳メモリ] を選択します。この選択ではローカル PC に保存されている翻訳メモリを選びます。



翻訳メモリを選択する参照ウィンドウが起動し、使用したい翻訳メモリを選択します。

なお翻訳メモリは複数選択することも可能です。

#### ファイル共有タイプの翻訳メモリを開く



### 【参考：翻訳メモリを新しく作る】

Trados Studio を初めてお使いになる場合、翻訳メモリはゼロの状態からスタートとなります。翻訳メモリがなく、新規で作成をする場合は [翻訳メモリの作成] を選択します。

#### 翻訳メモリと文書の設定



原文言語(S):  English (United States)

訳文言語(T):  Japanese (Japan)

 翻訳メモリの作成(C)...  使用(U)...  設定(S)...    削除(R)

☐ 名前

翻訳メモリの名前、保存場所、言語を選択し [完了] をクリックします。上部にある [フィールド] と [言語リソース] はデフォルトの設定から変更しなくても問題ありません。慣れたらご活用いただきたい中・上級者向けの機能です。



新しい翻訳メモリ

全般 フィールド 言語リソース 完了

3/4 完了しました

テンプレート: なし  参照...

説明(D):

次を認識する:

日付 時刻 数字 頭字語 変数 単位 英数字文字列

次の場合に複数の単語を 1 個としてカウントする:

ハイフンで結合されている ダッシュで結合されている アポストロフィを含んでいる

言語	変数リスト	略語リスト	序数詞...	分節規則	日付	時刻	数字	単位	通貨		
 英語 (米国)	既定	既定	既定	既定	既定	既定	既定	既定	既定	5	
 日本語 (日本)	既定	既定	既定	既定	既定	既定	既定	既定	既定	5	

ヘルプ 戻る 次へ **完了** キャンセル

[完了] をクリックすると、新しい空の翻訳メモリが作成されます。これから翻訳するデータは、この空の新規メモリにも登録されていきます。このように、ここのステップで新しく翻訳メモリを作成することも可能です。



これでプロジェクトに翻訳メモリが紐づいた状態になりました。複数の翻訳メモリを使用する場合は続けて [使用] から選択します。[OK] をクリックしプロジェクトを開始します。



#### 【参考：機械翻訳を利用する】

RWS からトライアルライセンスが提供されている場合、翻訳メモリとともに機械翻訳（Language Weaver）を利用できます。

Trados Studio での機械翻訳の利用方法について詳しくは、こちらの[ブログ記事](#)をご覧ください。

#### About RWS

RWS Holdings plc is a unique, world-leading provider of technology-enabled language, content and intellectual property services. Through content transformation and multilingual data analysis, our unique combination of technology and cultural expertise helps our clients to grow by ensuring they are understood anywhere, in any language.

Our purpose is unlocking global understanding. By combining cultural understanding, client understanding and technical understanding, our services and technology assist our clients to acquire and retain customers, deliver engaging user experiences, maintain compliance and gain actionable insights into their data and content.

Our clients include 90 of the world's top 100 brands, the top 20 pharmaceutical companies and 19 of the top 20 patent filers. Our client base spans Europe, Asia Pacific, and North and South America. We work in the automotive, chemical, financial, legal, medical, pharmaceutical, technology and telecommunications sectors, which we serve from 80+ global locations across five continents.

Founded in 1958, RWS is headquartered in the UK and publicly listed on AIM, the London Stock Exchange regulated market (RWS.L).

For further information please visit [www.rws.com](http://www.rws.com)

© 24 September 2025 All rights reserved. Information contained herein is deemed confidential and the proprietary information of RWS Group\*.

\*RWS Group shall mean RWS Holdings PLC for and on behalf of its affiliates and subsidiaries.